

国際協力

2020.4.1

春号

No.63

JICA 駒ヶ根

オリンピック・パラリンピックと JICA海外協力隊

2020年夏に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルスの世界的感染拡大のため、2021年夏へ延期となりました。

これまで多くのJICA海外協力隊員がオリンピック・パラリンピックに関わってきたことをご存知でしょうか？今春号では、オリンピック・パラリンピックに関わる隊員達の特集をお届けします。

1965年の協力隊発足当時から2019年12月末現在までに、90ヶ国に延べ4,679名の隊員たちがスポーツに関連する分野に派遣されてきました。その中でも、体育を教える隊員が一番多く、次に野球、柔道、バレーボールなど実に29にのぼる職種(種目)で派遣されています。



▲UNDOKAI

日本では当然のように「体育」という科目が学校にあります。開発途上国では「体育」という科目が実施されていない国もあり、また「体育」の授業があっても教えたことのない教員もいます。派遣された体育隊員は、学校現場で生徒に運動の楽しさを伝える体育の授業の向上を目指しています。さらに、同僚の教員の体育授業への助言や授業内容の提案を行っています。また、体育隊員だけでなく、小学校教育、青少年活動などの隊員達によって、様々な運動経験、協力・公平・規律の意識の育成、目標へ向かう力の向上を目的とした「UNDOKAI(運動会)」が世界31ヶ国で実施されています。

一方、JICA海外協力隊員が指導してオリンピックに出場した選手は、過去3大会において、24名となっています。

す。現在も隊員達が指導する選手が、東京オリンピック・パラリンピック出場を目指して、日々の練習に励んでいます。

長野県出身の隊員の中にも、スリランカで野球のナショナルチームを教えた隊員や、パラグアイでウェイトリフティングのナショナルチームを指導した隊員がいます。現在も、トンガでパラリンピック出場を目指す卓球の選手を指導している隊員、エルサルバドルでパラリンピックの陸上選手への指導をしている隊員もいます。オリンピック・パラリンピックを目指す選手たちを指導した隊員たちは、東京での大会に教え子たちが出場するのを楽しみに待っていることでしょう。

また、帰国後にホストタウン事業に関わっている協力隊の経験者もいます。長野県内では、中米のコスタリカと松川町、アフリカのウガンダと立科町のホストタウン事業を、それぞれの国から帰国した協力隊経験者が地域おこし協力隊員として推進しています。自分が活動した国とそれぞれの町の市民の皆さんとの交流活動の促進のために、様々なイベントや交流活動を計画・実施しています。

JICA海外協力隊員が指導したオリンピック選手一覧(過去3大会)

開催年・開催地	出場国名(アイウエオ順)	競技名	出場選手数	メダル獲得数
2008 北京	イエメン	柔道	1	金メダル1
	エルサルバドル	柔道	1	
	ジブチ	陸上競技	1	
	モルディブ	水泳	1	
	モンゴル	柔道	1	
	ルーマニア	柔道	1	
2012 ロンドン	ルーマニア	卓球	1	金メダル1 銀メダル1
	エルサルバドル	柔道	1	
	ガイアナ	水泳	2	
	ガボン	柔道	1	
	サモア	柔道	1	
	バングラデシュ	水泳	1	
	モルディブ	バドミントン	1	
モンゴル	柔道	1		
2016 リオ	ルーマニア	柔道	1	金メダル1 銀メダル1
	サモア	柔道	1	
	モンゴル	柔道	1	
	ソロモン	陸上競技	2	
	ヨルダン	柔道	1	
	ヨルダン	水泳	1	
チリ	柔道	1	金メダル1 銀メダル1	
ラオス	柔道	1		
総数			24	3

東京オリンピックに教え子が!!

小川 美沙 さん
(公社)青年海外協力協会(JOCA)

1993年からJICA海外協力隊員は、ケニアのバレーボールに関わっています。協力隊以外にも、日本人の監督がチームに貢献しました。2010年、私は青年海外協力隊の短期バレーボール隊員で10ヶ月間ケニアに派遣されていました。

同時期に派遣されていたシニア海外協力隊員と一緒にケニア女子ジュニアバレーボールチーム(16歳から19歳までの女子選手)を指導する機会がありました。

選手たちはとにかく元気。練習開始前や休憩中は、歌って踊る陽気なメンバーが多く、団結すると誰も止められない、大きなエネルギーを持っている彼女たちを知りました。言うまでもなく、選手たちの身体能力は高く、理屈よりも先に体が動き、すぐに新しい技術を覚えていました。

そんな彼女たちも今や20代半ば。当時教えた選手



▲オリンピック出場を喜ぶチーム

の中には、ケニア代表選手に選出された選手もいます。10年前は、身体的にも精神的にも華奢で海外遠征すると不安から泣き出しそうな子もいましたが、2019年日本で開催されたワールドカップでは、世界を相手に堂々と戦っていました。その姿を見て、私は、鳥肌が立ちました。

そしてケニア女子チームは、2020年1月9日にオリンピックアフリカ大陸予選で見事優勝し、2000年以来3度目のオリンピックに出場します。現在チームには、青年海外協力隊の片桐翔太隊員がコーチとして活動しています。日本の技術がケニアの新たな挑戦に関わっています。東京オリンピック初戦は日本。元気ある彼女たちにもぜひエールを送ってほしいです。

～ ケニアナショナルチーム ビットーク監督からのメッセージ ～

Tokyo here we come!

私たちは非常に多くのサポートを得て、アフリカ大陸から唯一、オリンピック出場権を獲得しました。これは、選手やスタッフ、スポンサーなどが団結し、達成した結果です。オリンピックでは、厳しい試合が待ち受けていますが、団結力を高め、一つの目標に向かってしっかり準備していきたいと思っています。

東京オリンピックで1勝し、ケニアバレーボールの歴史を作りたいと思っています。

初戦は、日本です。良い試合をして、楽しみたいと思います。(Mr. Paul Bitok より)

信州からアフリカへの贈り物

2018年12月、ルワンダで活動中の私の後任(バレーボール隊員)より、「ボールが不足していて、普及活動が十分にできない現状に苦しんでいる」という話を聞きました。

そこで、長野県飯田高校にボールの寄付を呼び掛けたところ、南信地域の高校からボール約150球と、ネット15張を寄付していただきました。

現地への輸送費は、駒ヶ根青年海外協力隊を育てる会に支援していただき、私が青年海外協力隊として活動したニジェール、ケニア、ルワンダに寄付しました。

南信地域の高校生が使用したボールは無事に3ヶ国に届き、今日も練習に使用されています。



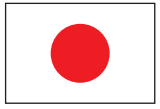
▲ケニアの小学校にて



▲ニジェールの中学校にて



iSomos unidos sin frontera!



～ 国を越えて、私たちは繋がっている！～



松川町ホストタウン推進員
白井 瑞穂 さん
(平成26年度3次隊コスタリカ派遣)

Hola (オラ: こんにちは)! 長野県松川町は JICA 研修事業や草の根技術協力事業で築いてきた縁から、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会におけるコスタリカのホストタウンに登録されました。コスタリカとの交流を通して「地域をつくる力」「世界とつながる力」を育むことを目指しています。

地域での交流イベントやスポーツ交流、高校生派遣事業など、松川町でのホストタウン事業の様子をご紹介します。



2019年「ホストタウンリーダー賞」を受賞

◆ 地域におけるコスタリカ交流イベント

まずはコスタリカに親しみを持ってもらおうと、料理教室やスペイン語教室などの文化体験、出前講座などを行いました。

また、町民有志による「コスタリカくらぶ」を結成し、コスタリカの方を招いた交流会や講演会、映画上映会、お祭りなど多様なイベントを開催しています。少しずつ交流の輪が広がり、応援してくれる方も増えました。



「コスタリカ祭り」ではコスタリカ人ダンサーと皆で伝統ダンスを体験



コスタリカくらぶ
細川 浩子 さん

参加者から「この言葉スペイン語だったんだ」「コスタリカに行ってみたくなった」というお言葉がいただけたことは、とても嬉しいことでした。
日本以外の国を知り、そこに暮らす人々のことに思いを馳せてみるということは、それだけでも松川町がコスタリカのホストタウンになった意味があるのではと思います。

コスタリカ選手と子ども達が交流



アスリートとの交流も欠かせません。柔道選手との交流や応援観戦ツアー、日本人オリンピック講演会など、子どもも大人も刺激がいっぱいです。

◆ 高校生を派遣! コスタリカ・スタディツアー

2019年3月21～29日まで、高校生10名がコスタリカを訪問。半年間の事前学習を通して町やコスタリカについて理解を深め、現地では学校交流や生活改善地域の訪問、ホームステイ体験などを実施しました。帰国後はふり振り返り学習を行い、報告会を開催しました。



コスタリカの高校生と交流



訪問先では日本や松川町について紹介

町長も期待する「人」を育てる事業

スタディツアー報告会での高校生のプレゼンには衝撃を受けました。感想で終わるのではなく、町への提言をしっかりと伝えてくれました。

最初は不安そうにしていた生徒たちも、地域を知り、外を見て、考えて、行動して、たくましく成長して帰ってくる。「人を育てる事業」の更なる発展に期待をしています。



松川町
宮下智博 町長



今年参加予定の 金山 紗知 さん

介護福祉士になりたいので、「福祉」を事前学習のテーマにして取り組んできました。現地でもコスタリカの福祉について勉強していきたいと思っています!



昨年参加した 玉置妃夜里 さん

当初は不安でしたが、コスタリカの人たちはとても温かく接してくれました。プログラムを通じて、思い切って行動できるようになり、成長を実感しています。

トンガ卓球協会配属パラ選手を指導

2018年度3次隊
こぼやし まこ

●派遣国：トンガ
●職種：卓球

小林 真子 さん(須坂市)

マロエレレイ!(こんにちは)オセアニアの小さな島国トンガ王国からパラ卓球の話題をお届けします。

一年前に卓球協会に配属されて初めの活動は2名のパラ選手とトレーニングを行うことでした。苦しうに、でも楽しうにトレーニングをする彼らの姿、そして「卓球は僕の生活の一部だ」という言葉に様々なことを考えさせられました。昨年のオセアニアパラ卓球選手権では車椅子の男子選手が3位に入賞。その後もパラリンピックへの出場を目指し国際大会に出場したり資金集めを続けましたが、東京大会への出場は叶いませんでした。

現在練習に参加するパラ選手は7人に増え、一部の選手とは卓球の普及のための学校巡回も行って



9月からトレーニングをするようになった選手です。誰よりも楽しうに練習をするので凄スピードで上達しています。



パラ選手との学校巡回の様子。「どうして車椅子を使っているの?」という生徒からの質問に真剣に答えています。

の選手が卓球を続けることで身体の動きが良くなり、日常生活が楽になったという話をしてくれました。また、ある選手の家族はその選手がどれだけ卓球の練習を楽しみにしているかを教えてくれました。私にとって本当にうれしい出来事でした。

少し気は早いですが目指すはパラリンピック2024。選手と共に一歩ずつ前に進んでいきたいと思えます。



昨年5月に行われたオセアニアパラ選手権では、手に汗握る接戦を制した男子選手が3位に入賞しました。他国の選手からも多くのことを学んだ大会となりました。

新シリーズ

訓練所の語学講師に聞きました!

駒ヶ根訓練所の派遣前訓練では、全体の約65%を語学の勉強に費やします。訓練生が一番多くの時間を一緒に過ごす、語学講師に聞きました!

いつもニコニコ笑顔のマリア・ヘスス先生。まずはスペイン語講師であるマリア先生に色々聞いてみました!



マリア先生は、いつから訓練所で教えていらっしゃるのですか?

M:1991年4月から訓練所で教えているので、もう29年になりますね...

えっ! マリア先生、29年間も訓練所で教えていらっしゃるのですか!?

先生のご出身はスペインでしたよね?

M: はい、スペインのセビリア出身です。

この訓練所のある駒ヶ根市をどう思いますか?

M:駒ヶ根は景色が素晴らしいです。長く住んでいる人は感じていないかもしれませんが、空気も、水も美味しいですね。語学を勉強するには一番いい場所だと思います。暮らしてみると、東京のような都会よりもずっと暮らしやすいですね。

訓練所でスペイン語を教えるやりがいは何ですか?

M:スペイン語を何も分からない状態で学び始めた生徒たちが、70日間でスペイン語を上達しているのを見たり、生徒たちと一緒に自分も頑張れるのが好きです。協力隊に行くという目的があるから、短時間で語学を習得することに感動します。訓練所のような環境は他にはないです。訓練所の語学クラスで一番大切なのは、任地に行ってから困らないようにすることです。コミュニケーションをとれるために、繰り返し繰り返し練習をしています。

訓練所で一番印象に残っていることは何ですか?

M:9年前(2011年)の3月11日に地震があったことです。修了式を終え、隊員達が訓練所を出発した後に地震が発生しました。災害のために自分の家に帰ることができない人たちは、訓練所に戻ってきて、2、3日訓練所に滞在していました。訓練所という居場所があって良かったと思いましたね。その後も、訓練生たちは、訓練中や訓練後に東北、新潟、長野の被災地にボランティアとして行ってきていました。海外にボランティア活動に行くだけでなく、日本国内でも必要なところにボランティアに行くのは良いことだと思います。

最後に、これから協力隊を目指す方にメッセージをお願いします。

M:協力隊では、自分で目標を作って訓練所に来て、ここで色々な人と出会って、任地でも色々な人に出会って、宝物のような時間を作れます。協力隊の2年間で、自分の力を確かめることができ、日本の文化をもっと理解でき、自分の考え方も整理できます。旅行では分からない、その国の文化を深く知ることができる素晴らしい時間だと思います。

マリア先生、ありがとうございました。



▲マリア先生の教室

駒ヶ根訓練所の取り組み

駒ヶ根グローバルユースキャンプが開催されました！

2020年2月18日～21日駒ヶ根グローバルユースキャンプが、訓練所で開催されました。参加者26名はほとんどが大学生でしたが、地元の高校生、遠く広島からも参加してくれた高校生もいました。



▲語学レッスンの様子

初日は、駒ヶ根訓練所の概要説

明、施設見学の後、ワークショップ(世界共通の信頼関係づくり)が実施されました。夕方には、訓練生が毎週行う班ミーティングに、グローバルユースキャンプの参加者たちも、合流しました。

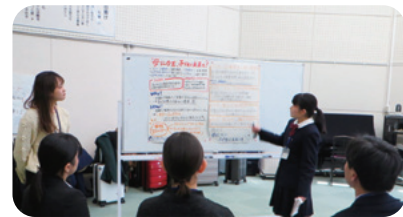
二日目からは、午前中に3時間の語学クラスに参加し、午後は協力隊シミュレーションというワークショップに参加しました。アフリカの架空の村の現状を聞き、その村にJICA海外協力隊員として2年間

派遣されるなら、どのような活動を行うかをグループごとに協議するワークショップです。最終日の発表に向けて、参加者の皆さんは何度も話し合いを重ね準備をしました。

最終日には、自分たちが考えた2年間の協力隊の計画を発表し、自分たちの今後のアクションプランを宣言して終わりました。

参加者の皆さんからは、「訓練生との交流から一番多くのことを学んだ」、「いつか協力隊に行ってみようという気持ちが強くなった」などの感想をいただきました。

今回の参加者の皆さんが、次は訓練生として駒ヶ根訓練所に来てくれることを楽しみにしています。



▲協力隊シミュレーションの発表

2020年JICA海外協力隊 春募集説明会上田市で開催

JICA海外協力隊2020年春募集説明会に併せて、一般の市民の皆さんを対象としたトークイベントを長野県内3ヶ所で開催しました。

2月1日(土)、上田市では「台風19号被災地支援×JICA海外協力隊」と題し、上田市多文化共生推進協会(AMU)の後援を得て開催。ゲストスピーカーには、AMU会員の半田大介上田市議とMs.BAYARMAA ULZIIKHUTAGE(上田市在住モンゴル人)、宮原 薫OB(上田市)と増田 学OB(駒ヶ根市)の4名の方をお招きし、台風19号襲来時の状況や在留外国人への支援、協力隊参加経験の活かし方などについて語っていただきました。身近な話題でもあったせいか、当日は市民や学生20名程の参加がありました。トークの中で半田市議からは、台風襲来時に指定緊急避難所44ヶ所に最大2400人以上の住民が避難し、市内在住外国人の9割が避難指示情報を知っていたが、避難所の場所がわからなかったと言う人もいたとのことで、

情報共有や地域での避難訓練等への参加が課題との紹介がありました。

又、日本滞在が20年以上のBAYARMAAさんからは、留学生のサポートもしているが、新しく来たモンゴル人留学生との連絡が中々取れないと言った課題が紹介されました。

一方、隊員経験者である宮原、増田両OBからは、隊員は任国に行けば在留外国人の立場、色々と不便な生活を強いられるが何とかするという経験とマイノリティの視点からの支援が災害時にも役立っているといった紹介がありました。



▲トークイベントの様子

元JICA海外協力隊員のお話を聞きませんか？

1. 国際協力出前講座

JICA海外協力隊経験者、駒ヶ根訓練所の語学講師・スタッフなどを講師として、学校現場や研修等に派遣し、活動体験談、途上国の話を聞くことができます。他にも、国際理解ワークショップ、エスニック料理教室なども行います。生徒さんたちの国際理解や異文化理解、将来の進路選択に役立つ機会としてご利用いただいています。

2. 駒ヶ根訓練所への施設訪問

日本に2ヶ所しかないJICA海外協力隊が派遣前訓練を行う駒ヶ根青年海外協力隊訓練所で、国際理解や国際協力について学びます。海外協力隊経験者の体験談を聞いたり、国際理解ワークショップ、語学体験学習を受けることも出来ます。

内容や人数など、予算に合わせ、ご要望に応じた形で開催しますので、JICA駒ヶ根へご相談下さい。

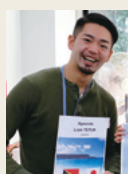
2019年度3次隊訓練が修了した長野県出身JICA海外協力隊員



の も と や す ひ ろ
野本 泰洋さん(長野市) 派遣国：ザンビア 職種：野菜栽培
ザンビアの北部に位置するカサマという地域に行きます。任地では農業研修所の圃場管理と周辺農家さんの巡回指導を行う予定です。現地の人々とともに汗を流し、学び、協力しながら活動が行えたらと思っています。



か が せ ゆ う
加賀瀬 悠さん(上田市) 派遣国：ケニア 職種：環境教育
首都ナイロビ近郊に位置するキアンブ・カウンティという自治体の環境・廃棄物行政を行う役所に派遣され、学校での環境教育や住民に対する啓発活動の支援を行います。任地のきれいな街づくりのためにがんばります。



は ち や さ と し
蜂谷 聖さん(飯田市) 派遣国：東ティモール 職種：サッカー
東ティモールのエルメララ県という地域でサッカー指導を行ってきます。サッカーを通して子ども達やその周りの人々がより笑顔になれる機会を多く提供できるように頑張ります。



な か じ ま ま さ き
中島 雅樹さん(駒ヶ根市) 派遣国：ヨルダン 職種：青少年活動
小学生の時の協力隊員との交流から国際協力に関わる仕事がしたいと考えていました。派遣先のヨルダンでは青少年活動として孤児院で活動します。現地の子供たちに日々の生活の中で希望を与えられるように頑張ります。



お お た み ほ
太田 美穂さん(池田町) 派遣国：ガボン 職種：高齢者介護
アフリカのガボンの首都で、高齢者の生活のケアに携わります。看護師としての経験を生かし、そこで療養する人々がより良い生活を送れるようお手伝いしたいと思います。

なお、新型コロナウイルスの影響で、派遣は延期となっています。

海外協力隊

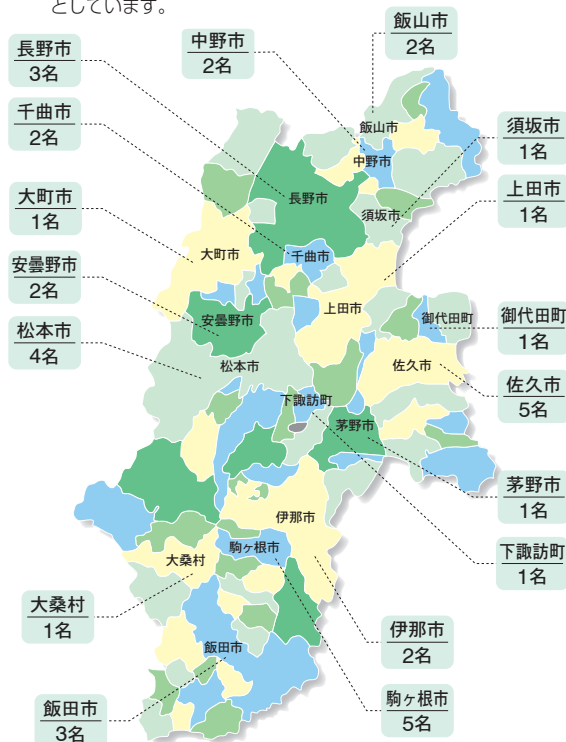


お か じ ま り つ こ
岡島 律子さん(飯島町) 職種：空手道 派遣国：モザンビーク
東アフリカのモザンビークの首都マプトに空手道の指導で行ってまいります。
長年続けてきた空手を通して日本武道の魅力を大勢の方々に伝えたいと思います。また日本の文化、書道、生け花なども一緒に楽しみたいですね。異なる言語の中で多くのことを学んでいきたいです。

派遣中JICA海外協力隊員

(2020年3月2日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数=JICA ボランティアの数としています。



長野県関係者 JICA海外協力隊派遣実績

2020年2月6日現在

派遣中…………… 33名 累計…………… 1161名

発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
https://www.facebook.com/jicakomagane

JICA駒ヶ根 メールマガジン
☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。